

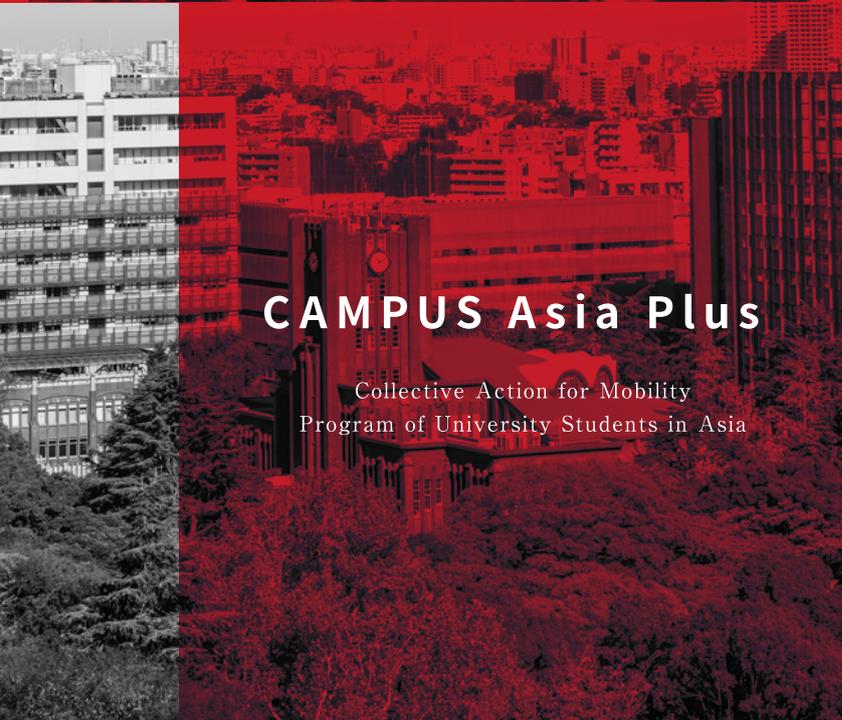
**CAMPUS Asia+**  
UTokyo / PKU / SNU / NUS



## アジアと世界の架け橋になる、 次世代のグローバル人材に。

日中韓星\*で公共政策と国際関係を学べる、  
ダブル・ディグリー & 交換留学制度

\*星=シンガポール



# CAMPUS Asia Plus

Collective Action for Mobility  
Program of University Students in Asia



# 東京大学公共政策大学院の CAMPUS Asia Plus とは

日中韓星のトップ大学を舞台にした、東アジアの公共政策・国際関係を英語で学ぶダブル・ディグリー＋交換留学のプログラムです。

CAMPUS Asia プログラムは、日中韓の大学が学生や教職員の交流を促進し、密接な協力関係の中で次世代アジアを牽引するグローバル人材を育成するという構想のもと、文部科学省「大学の世界展開力強化事業」の一つとして2011年に始まりました。2021年、日中韓交流の枠組みをASEANに拡大し、北京大学国際関係学院、ソウル大学校国際大学院、東京大学公共政策大学院からなるBESETO (Beijing-Seoul-Tokyoの頭文字)というコンソーシアムに、シンガポール国立大学リー・クワン・ユー公共政策大学院が新たに加わり、4大学の大学院レベルでダブル・ディグリーと交換留学を行うCAMPUS Asia Plusが始まりました。激動する国際社会の中で、日中韓3カ国の未来志向の協力やASEAN諸国との連携が重要性を増しています。4カ国で国際関係と公共政策を学べる CAMPUS Asia Plus プログラムは、将来東アジアと世界を結ぶリーダーとしてグローバルな活躍を目指す学生にとって、他では得難い貴重な経験の場となることでしょう。





## 目的と育成する人材像

日中韓星4カ国とASEANの関係を深く理解し、高いコミュニケーション能力でグローバルな課題解決に取り組む、次世代のリーダーを養成します。

安全保障問題や環境問題、国際社会経済の安定、新型コロナウイルスに起因する様々な問題、超高齢化社会など、一国では解決できない、あるいは各国で共通した現代社会の課題に取り組むためには、いかに国や国民同士の信頼関係を構築するかが重要な鍵となっています。また、このような課題に対し、歴史・文化・言語・習慣の違いを尊重しながら、高い語学力とコミュニケーション能力を持って問題解決できるグローバル人材の必要性がますます高まっています。

本プログラムは、国際社会の中でも特に注目が集まるアジア地域において、日・中・韓それぞれの文化的視点を理解しつつ、東南アジアのハブ拠点であるシンガポールの視点も加えて、公共政策と国際関係の専門性を身につけたアジアのエキスパートを養成します。またアジア4カ国のトップスクールの学生による交流も本プログラムの狙いの一つです。留学という一生ものの貴重な体験を通して他国の仲間と一緒に学んだ経験が、将来、国際社会の公共性に共に貢献するネットワークを形成していく、そんな未来をイメージしています。



## プログラムの内容

### ダブル・ディグリー＋交換留学

東京大学公共政策大学院のCAMPUS Asia Plus プログラムは、参加学生が「ダブル・ディグリー＋交換留学」とオンラインによる交流によって、原則として3ヵ国での学びを経験をします。どの学生も最初の1年間で東京大学公共政策大学院で学び、その後の1年半または2年で、ダブル・ディグリーと交換留学をします。ダブル・ディグリーでは、東京大学に在籍しながら北京大学国際関係学院、ソウル大学校国際大学院、シンガポール国立大学のいずれかの大学院に1年間学び、留学先の修了要件を満たすことで東京大学ともう一つの大学の修士号を得ることが可能です。さらに交換留学先で1学期間留学し、2年半から最大3年間で修了します。

東京大学  
1年

北京大学・ソウル大学校・シンガポール国立大学  
1年半～2年

東京大学  
＋ダブル・ディグリー実施大学  
学位・修士取得